

秋田県理学療法士会ニュース



第185号
2018年11月15日発行

発行:公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長:菅原 慶勇 編集:加賀屋勇気 印刷:(株)秋田情報プリント
事務局:〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ <http://www.ptakita.org>

✓巻頭特集

DMAT活動報告



「100キロチャレンジマラソン トレーナーサポート」

「認定理学療法士のすゝめ」

「多職種連携推進フォーラム開催報告」 「おえだの職場知ってけれ」

「部長だより 会長の動き」 「ERS2018 in Paris」 「マイブーム」



11

2018

Nov. Dec.

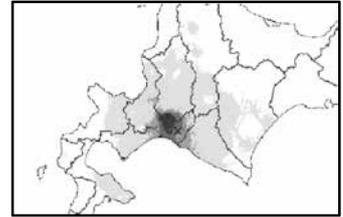
12



Disaster Medical Assistance Team 活動報告

～理学療法士が見た被災地での活動の様子～

2018年9月6日、北海道胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の大規模な地震、北海道胆振東部地震が発生しました。北海道では観測史上初の最大震度7が観測され、10月29日現在で、死者41名、重軽傷者749名という人的被害に加え、北海道全域で今もライフラインが復旧せず、元の生活に戻れない方も多くいらっしゃいます。



震源地である胆振地方中東部
(気象庁 推計震度分布図より)

地震発生を受け、秋田県のDMATへ派遣要請がありました。その要請を受け、DMATの一員として菅原慶勇会長も現地に向かい活動に参加されました。今回は、菅原会長に現場での活動の様子をご報告いただきます。

DMAT活動報告

市立秋田総合病院 菅原慶勇

この度の北海道胆振東部地震によりお亡くなりになられた方々並びにご遺族の皆様方に対しまして深くお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。また、今なお活動されている医療関係者他、北海道理学療法士会の皆様方に心より敬意を表します。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震において、北海道庁からの派遣要請に基づき、市立秋田総合病院DMAT隊(医師1名、看護師3名、業務調整員2名)の業務調整員として被災地に赴きました。

DMATは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、厚生労働省の認めた専門的な研修訓練を受けた災害派遣医療チームです。大地震等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、概ね48時間以内を基本とした活動期間で、救急治療等の現場活動のほか、現地本部活動とサポート、広域地域医療搬送、病院支援や情報収集等のロジスティクスを行います。

では、当隊の活動を時系列で報告させていただきます。

9月6日

3:08頃

発災。東北ブロック管内DMAT派遣要請。

19:30

患者搬送可能な救急車の装備点検等を行い
青森港フェリー乗場へ出発。

9月7日

2:40

函館港行フェリー乗船。

6:26

下船後、札幌医科大学に設置された札幌医療圏活動拠点本部(以下本部)に向け陸路移動。札幌市内の携帯電話の通話状態悪く、開いているガソリンスタンドは長蛇の列、信号は所々消灯しているため注意を要す。

12:00

本部到着。ブリーフィング※後活動開始。当隊を実動部隊と調整部隊に分け、被災医療施設の緊急詳細情報収集を実施。

18:00

明日の活動方針のブリーフィングを受け、本部待機。

21:00

活動終了。



30～40台の救急車が集結

※ブリーフィングとは…

『状況報告』『活動報告』のこと。DMATの活動では、今回の報告でも分かるように、一日の活動を必ずスタッフで共有することとなっています。

9月8日

7:30

本部全体ミーティングで**医療情報不明施設160施設**、**要支援施設**で状況更新がない施設138施設、これら施設は**食料状況も不明**、札幌市内の電力通信状況はおおよそ復旧と伝達。当隊は、札幌市内の医療情報不明19施設に電話による**ライフライン**等詳細情報と食糧供給状況の確認と5施設の施設状況確認のため**現地調査**を実施。

17:36

任務終了本部帰還、撤収。

23:59

苫小牧港発八戸港行フェリーに乗船。



宿泊は体育館、寒いのでフライトウエア着用のまま就寝。光っているのはフライトウエアの蛍光テープです。

9月9日

7:30

八戸港到着下船、陸路秋田へ。

13:23

市立秋田総合病院到着、DMAT隊解散。



2日目のブリーフィングの様子

今回の災害派遣では、札幌市内の被災地域の医療需要と医療体制を把握し、病院支援を行なう目的で活動しました。様々な情報が氾濫する中で医療ニーズを把握し、的確な医療資源を投入できるか問われる活動でした。改めてCSCA (C: Command and Control 指示命令系統の確立、S: Safety 安全確保、C: Communication 情報収集と伝達、A: Assessment 評価)の重要性と迅速な初動のために平時からBCP(事業継続計画)を意識した周到な準備の必要性を再確認しました。今回の経験を活かし心身が許す限り、災害医療マネジメントに関する知見をブラッシュアップしていきたいと考えています。

文献で学ぶ災害とリハビリテーション

ニュース編集班では、この度の報告を受け、理学療法士とDMAT活動、被災地でのリハビリテーションについて、文献検索も行いました。その内容を簡単ではありますが、レポートさせていただきます。興味のある方は、ぜひ原著もご覧になってください！

DMATにおける理学療法士の役割

理学療法士には、業務調整員の役割が与えられます。業務調整員には医療機器や専門用語などの医療知識が多く必要とされ、医療に従事し、患者にも接触しているコメディカルが求められます。さらに傷病者の重症度、疾患名、外傷部位、バイタルの推移、移動の可否などを速やかに理解し、適切な対応が可能な理学療法士がDMATの一員となることで、医師・看護師と消防・救急の間で更なる連携が可能となると報告されています。

被災地でのリハビリテーション・理学療法

災害時には、**心筋梗塞**や**深部静脈血栓症**、**心不全**などの疾患の発生リスクが約**1.5~2**倍程度増加するとされています。こうした疾患への予防・対応が重要となります。

東日本大震災における災害リハビリテーションの報告によると、入院診療の継続が困難になった病院では、全ての患者の転院が完了するまで、リハビリスタッフが患者の生活の継続や全身状態の維持に努めたそうです。また、**起居**、**起立**、**動作介助**などはリハビリスタッフが中心となって行っていました。電気が止まっているため患者の移送には階段の使用を余儀なくされていましたが、その際もリハビリスタッフの技術が大きな役割を果たしたそうです。

いつ起こるかわからない災害に備え、多くの方にDMATや災害リハについて知っていただき、いざという場面には活動出来る体制を整えておくことが大切なのではないかと思われれます。

文責：竹内 ひなた、加賀屋 勇気

〈参考文献〉

- 岡村 正嗣, 他: DMAT (災害派遣医療チーム) における理学療法士の支援活動の可能性, 理学療法科学2017, 32(5): 745-748
- 上月 正博: 災害リハビリテーション-東日本大震災での3か月-, Jpn Rehabil Med 2011;48:576-587

2018・北緯40°秋田内陸リゾートカップ 第28回 100キロチャレンジマラソン大会

秋田内陸100キロの大激走！！ ～トレーナールームにおける選手サポートの報告～

山王整形外科医院 瀬戸 新

本県では秋田わか杉国体開催を機にスポーツ競技力の向上のためトレーナー部会が発足し、現在も活動を行なっています。今回その一環として行なわれた、「2018北緯40°秋田内陸リゾートカップ 100キロチャレンジマラソン」における選手サポート活動に参加してきましたので、その様子を報告させていただきます！

そもそも、皆さんは秋田100キロマラソンをご存知でしょうか？今回で28回目となるこの大会は、角館を午前4時半にスタートする100キロ組と、比立内を10時半にスタートする50キロ組が、それぞれ秋田内陸を北上しながら17時半までに鷹巣のゴールを目指すマラソン大会です。毎年県内外から多くの方が参加され、今回も1447人のランナーが参戦しました。

さて、本題の活動内容ですが、スタートから63キロ地点のエイドステーション内に設置されたトレーナールーム内で、参加選手に対してマッサージやストレッチ、また必要に応じてテーピングや運動指導などを実施することでした。菅原慶勇会長、長谷川弘一先生、私のほか柔道整復師や鍼灸師の方を含めた7名で活動を行ないました。

午前8時過ぎに現地に集合し、会場設営とアイスパックの準備を済ませた後、10時半頃から選手たちでエイドステーションがにぎわい始めました。そして10時40分頃に最初の利用者が訪れてからは次第に増えていき、11時半頃からは待ちも出始め、7人全員フル回転となりました。最終的に、63キロ地点の制限時間である13時半までの3時間で94名の選手に利用してもらいました。

トレーナールームが設置されている100キロマラソン大会は珍しいようで、「毎年利用している、すごく助かっている」という声も多く聞かれました。脱水や筋疲労だけでなく身体のマルアライメント、関節変形、内科的な問題を抱えながら参加している方も多く、競技中にできるサポートは限られてしまいますが、だからこそ質を高めていく必要があると感じました。今後もさらにサポート体制を整備することで、本活動の価値も一層高まっていくのではないのでしょうか。興味のある会員の方はぜひ来年のサポートを検討してみてください。一緒に怒涛のマッサージタイムを体験しましょう。笑

さらに、今回は100キロマラソンに参加されたという会員からもお話を聞くことができましたので、ぜひご一読ください！！

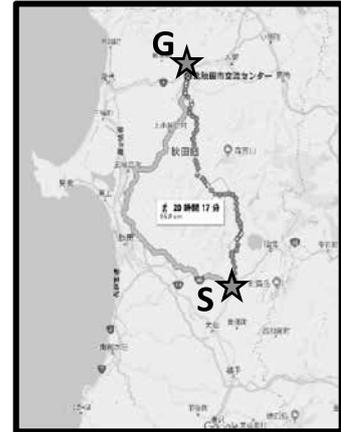


今回のトレーナー（左）とトレーナールームの様子（右）

100キロマラソンに参加してみた

北秋田市民病院 高橋晃平

北秋田市民病院勤務3年目。理学療法士の高橋晃平です。私は9月に行われた秋田内陸リゾートカップチャレンジマラソン100kmの部に参加し、無事完走することができました！今回、県士会の方から「参加した感想を書いてほしい」と依頼をいただきましたので、参加してみた感想をお伝えしたいと思います。



院内の先輩からの勧誘がきっかけで一昨年から参加し始めたこのチャレンジマラソン。中学～大学の約10年間陸上部だったこともあってか、一昨年、去年とハーフ50kmの部を2年連続で無事完走できました。そして今年、「100kmのキツさと感動を1度は体感したほうがいい」という友人の勧めに乗せられ、半ば勢いで100kmに出場することとなりました。すぐに後悔することになりましたが。

まず感じたのは気温。100kmの部スタート早朝4時半の時点では約17℃、50kmの部スタートの午前10時半で約23℃という気温差もあり、序盤は関節痛、また後半になればなるほど強さを増す日照に苦しめられました。そして35km～50km地点に存在する峠ポイント。経験者曰く「恐怖の峠道」、「人が走る道ではない」とのこと。あの時ほど横を通る車をうらめしく感じたことはありません。そして峠を必死に越えたダメージを抱えながら残り50kmを走らなければならぬという事実がなにより精神にきました。

痛みと疲労に耐えつつそれでも100km完走できたのは、応援とエードのおかげです。約10kmごとにあるエードでの食事や飲み物は多種多様で、場所によってはなめこ汁や漬物、コーラなどの炭酸飲料を置いてくれているのは大きな心の支えでした。また序盤から後半まで、多くの方が沿道で応援の声をかけてくれるおかげで、諦めそうになっても止まらずに進むことができました。特にゴール地点の鷹巣については「お帰り」の声が増え、50kmのゴール以上の達成感を得ることができたと思います。この苦しくも素晴らしい大会を支えてくれているボランティア、スタッフの方々には感謝しかありません。ありがとうございました。

ちなみにこのチャレンジマラソン、100kmの部を10回完走することで「クリスタルランナー」の称号を得ることができます。ゼッケンの色が青になり(一般参加は白)一目でその偉業を確認することができるようになるのですが…あと9回頑張ります…

県士会のみなさんもお興味があれば、ぜひ来年ご参加下さい！



平成三十年十一月

秋田県理学療法士会ニュース特集

生涯学習班著

認定理学療法士のすゝめ

平成33年4月から始まる新生涯学習制度を前に、我々が知っておくべきこと、そして認定理学療法士取得に関する重要な情報を提供いたします。

例年11月は認定理学療法士を目指す上で重要な月となっております。その理由は、認定試験の申請期間となっているからです。今年度の申請期間もホームページ上に記載されました。今年度は**2018年11月1日～11月30日**までとなっております。また、**認定試験日は2019年3月2日**となっております。

今回は認定試験申請に際して必要となる『症例報告』に関するお話です。認定理学療法士になるために、必須研修や指定研修への参加、その他ポイント取得のため学会発表や講習会への参加などで条件を満たすほかに、症例報告が必要となります。

ではどのように作成すればよいのか・・・

実はホームページ上にそれぞれ分野別に症例報告フォーマットが提示されております。それに合わせて作成すれば完成となります。さらには、症例報告記入例も提示されております。そちらも参考に作成すればあっという間に完成です。

ただし、症例報告審査は、その領域として適切な患者・介入の選定力、および問題点把握能力・考察力など、作成者がどのように考え構成されたかまで含めて審査委員により審査が行われます。そのため、「これらの症例はどこに該当しますか?」「この領域の症例報告はどのような症例を選べばいいですか?」というようなお問い合わせにはご返答できませんので、その点に関しては自分の力で解決しましょう。

文責：生涯学習班 伊藤 雄平（秋田厚生医療センター）

生涯学習に関する問い合わせ先（秋田厚生医療センター リハビリテーション科）

TEL:018-880-3000 E-mail:akriha@akikumihsp.com

南部地域

多職種連携推進フォーラム開催報告

去る10月13日に、横手セントラルホテルを会場に、『多職種連携推進フォーラム』が開催されました。このフォーラムは、リハビリテーション専門職と在宅医療・介護にかかわる職種、行政が情報交換し、お互いの連携強化を図ることを目的として、秋田県リハビリテーション専門職協議会南部ブロックが主催したものです。

秋田県リハビリテーション専門職協議会は、一昨年8月に秋田県理学療法士会・秋田県作業療法士会・秋田県言語聴覚士会の三団体が連携を図りながら地域リハビリテーション活動への参画を推進する目的で発足しました。

フォーラムでは、「多職種交流の場」と、「リハビリテーション専門職の力・魅力をアピールする場」が紹介されました。多職種交流の場の紹介では、『県南ほっこりネット』代表 村上紀一氏と『ケアカフェよこて』代表 渡部勝氏による、横手市における多職種交流の取り組みを紹介いただき、リハビリテーション専門職の力・魅力をアピールする企画では、『地域資源を知り、地域とつながろう』と題し、シンポジウムを行いました。シンポジウム座長に、長山正弘氏（特別養護老人ホームすこやか横手作業療法士）、シンポジストに、内桶圭時氏（横手市役所高齢ふれあい課課長）、小田嶋尚人氏（市立横手病院理学療法士）、鈴木史子氏（雄物川クリニック作業療法士）、大友剛氏（市立大森病院言語聴覚士）をお招きし、フロアの介護支援専門員と積極的な意見交換が交わされました。

多数の当会会員の方々にご参加いただきまして、最終的な参加者は、総数121名（PT23名、OT15名、ST5名、介護支援専門員61名、医師7名、その他10名）となり、盛大なものとなりました。これもフォーラム運営の中心メンバーとなったリハ専門職協議会南部ブロック横手支部の方々のご尽力の成果だと思います。大変お疲れ様でした。



↑会場の様子 ↓シンポジウムの様子



文責：木元裕介（南部ブロック長）

あなたの職場を知ってけれ！

いつも転院申し送りしているけど、知っているようで知らないあの病院、あの施設・・・どんな理学療法士がどんなことしているの？そんな疑問に答えるべく、自分たちの病院・施設を紹介していくコーナーです！



第18回は「由利本荘医師会病院」です！

それでは由利本荘医師会病院のみなさん！ご紹介をお願いします！

はい！小倉さゆり・佐々木俊太が当院について紹介させていただきます！



〈私たちが働く病院は…〉

当院は東北・北海道地区では初の医師会運営病院として開設され、平成13年10月市内水林地区の由利本荘市福祉エリアに新築移転し、医師会活動の拠点として、またCT/MRI/臨床検査などの医師会員共同利用施設としても機能しています。病床は全150床で、各50床ずつ3病棟構成になっており、おもに回復期・慢性期相当のリハビリを提供しています。また、訪問リハビリも実施しており、在宅生活に寄り添ったリハビリを提供しています。

〈リハビリ対象疾患は…〉

脳血管疾患、整形外科疾患、廃用症候群、呼吸器疾患、がんなど多岐にわたる疾患を対象としています。

〈理学療法士の人数は…〉

PT：10名 OT：6名 ST：2名 マッサージ師：2名

〈私たちの病院のここが“ウリ”です！〉

- ・リハ対象患者1名に対し複数担当制を設けており、活発な意見交換をしながら、リハビリを行っています。
- ・在宅生活を見据えた退院支援を行うために、家屋評価を行い、住宅改修や福祉用具選定のアドバイス等を行っています。また、院内スタッフやCM、退院先のスタッフ、家族、福祉用具業者等との担当者会議を積極的に行い、スムーズな退院へとつなげています。

部長だより

研修部

●生涯学習班

平成30年度新人教育プログラムについて

① 第4回新人教育プログラム研修会

期日：平成30年12月8日（土）

会場：秋田リハビリテーション学院

内容：8：30～ 受付

9：00～10：00 <理学療法の基礎>B-1「一次救命処置と基本処置」
富田 浩輝 氏（秋田リハビリテーション学院）

10：10～11：10 <必須研修>A-3「リスクマネジメント」
木村 麻衣子 氏（羽後町立羽後病院）

11：20～12：20 <理学療法の基礎>B-2「クリニカルリーズニング」
鈴木 瞭平 氏（雄勝中央病院）

12：30～13：30 <理学療法における人材と育成>E-2「コーチングとティーチング」
佐藤 陽介氏（秋田厚生医療センター）

受講料：1 講義300円

備考：①事前の申し込みを11/30まで下記E-mailアドレスをお願いします。

氏名、所属、受講希望テーマをご記入ください。

②公益社団法人日本理学療法士協会会員証をお持ちの方は、受付にて使用しますので、必ず持参して下さい。

③新人教育プログラム修了者も受講できますが、専門・認定理学療法士を受験または更新するためのポイントには認定されません。

新人教育プログラムに関するお問合せ先：生涯学習班 伊藤 雄平

秋田厚生医療センター リハビリテーション科

〒011-0948 秋田市飯島西袋1丁目1番1号

TEL 018-880-3000（内線2159）

E-mail:akriha@akikumihsp.com

会長のうごき

9月

9月2日(日) 秋田県防災訓練参加（北秋田市）

9月3日(月) 県四師会と懇談（秋田市）

9月4日(火) 秋田県健康福祉課健康づくり課と懇談（秋田市）

9月5日(水) 3役会議（秋田市）

9月6日(木)～9日(日) 北海道胆振東部地震被災地へDMAT隊として派遣（北海道）

9月13日(木) 介護予防事業講師（秋田市）

9月19日(水) 介護予防事業講師（秋田市）

9月23日(日) 100kmチャレンジマラソントレーナー部会として参加（北秋田市）

9月25日(火) 潟上市障害者総合支援法に関する審査会参加（潟上市）

10月

10月6日(土) 東北DMAT参集訓練参加（秋田市）

10月7日(日) 日本理学療法士協会組織運営協議会

参加（東京）

10月9日(火) 秋田市市民健康フォーラム参加（秋田市）

10月10日(水) 秋田大学医学部保健学科講義（秋田市）

10月11日(木) 介護予防事業講師（秋田市）

10月13日(土) 多職種連携推進フォーラム講師（男鹿市）

10月17日(水) 第4回理事会参加（秋田市）

10月17日(水) 秋田大学医学部保健学科講義（秋田市）

10月24日(水) 秋田県介護人材確保対策事業講師（秋田市）

10月25日(木) 秋田市多職種連携推進研修部会参加（秋田市）

10月31日(水) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による大学評価参加（北海道）

European Respiratory Society 2018 in Paris

欧州呼吸器学会、通称ERS。世界中から呼吸器の治療・リハビリテーション・ケアに関する専門家たちが集結するこの国際学会で、市立秋田総合病院の川越厚良氏がシンポジストとして登壇されました。学会の様子や、学会を通して感じたことをうかがいました。



～ERS 2018のシンポジウムを経験して～

市立秋田総合病院
川越 厚良

今年の9月15-19日にフランスはパリにて開催された欧州呼吸器学会（European Respiratory Society; ERS）にシンポジストとして参加して参りました。シンポジウムのテーマは「The digital revolution in respiratory medicine: a personalized approach?」（直訳すると「呼吸医学におけるデジタル革命：個別化アプローチとは？」）であり、呼吸リハビリテーション(呼吸リハビリ)のセッションを担当致しました。デジタル革命ということだったので、当院で行っているデジタルな機器（主に加速度計）を用いた呼吸リハビリの評価・介入についての内容を中心に、世界一高齢化が進んでいる秋田県の現状も含めて紹介して参りました。

今年の学会参加を通じて、特に印象深い内容としては、在宅や地域に根差したプログラムやネットワークを駆使した患者管理プログラムがキーワードとなる介入試験が多い印象でした。増悪・急変の予兆を捉え、早期に洗い出して介入し、医療費コストの削減を目的とするアプローチが、リハビリテーションをテーマにしたセッションにおいて、特に目に留まりました。身体活動量(physical activity; PA)を主要評価項目にする演題も増えている印象であり、在宅中心に介入を進めていくうえでは、PAは重要なテーマの一つになり得ることが示唆されました。呼吸リハビリに限らず、今後はあらゆるモバイルデバイス、オンラインサービスといったテクノロジーを活用した連携によって、患者自身の行動変容により自己管理を徹底していくことが求められるのではないかと考えます。

学会全体を通じて欧州各諸国の取り組みに大変刺激を受けました。国際学会というだけに多様な価値観を意識させられる機会となり、今後日本に合った介入法を考えていく上で参考にしていきたいと思う所存です。下の写真はシンポジウムで私が登壇している間の写真ですが、一人でいたアジア人を気遣ってくださり、別のシンポジストの先生が撮ってくださいました。ありがたくて泣きそうになりました。国境を越えて人の温かさに触れることができることも国際学会の醍醐味かと感じます。



会場のテラスからは遠くにパリのシンボル、エッフェル塔を見ることができました。



登壇される川越氏。非常に大きな会場で、スライドに加え、シンポジストが話す様子も画面には映し出されます。

マイブーム

森岳温泉病院
福士 正紀

能代山本訪問看護ステーションの齊藤さんからバトンと受け取った森岳温泉病院の福士正紀と申します。よろしくお願いします。

私のマイブームは、モータースポーツ観戦です。中でも特に私が好きなのは、「スーパーGT」という国内最高峰のレースです。モータースポーツは日本ではあまり人気がないと思いますし、スーパーGTを知らない方がほとんどだと思います。そこで今回は、スーパーGTの面白さを紹介したいと思いますので、お付き合いください。

まずレース車両は、日産GT-R、レクサスLC500、ホンダNSX、ベンツ、BMW、フェラーリ、ランボルギーニ、プリウスなどがエントリーしています。市販されている車両の外見を残しつつ、エンジンなどは全くの別物です。なので、プリウスがフェラーリを抜き去るなんていうおもしろいシーンが見れたりします。

次にドライバーについてです。F1などでは、1台の車を一人のドライバーが予選から決勝まで戦うのに対し、スーパーGTは1台の車両を2人のドライバーが交互にドライブします。ドライバー同士の関係などがうまくいかないと勝つことは難しいレースです。

スーパーGTには、GT500（500馬力の車）とGT300（300馬力の車）という馬力の異なる2つのカテゴリーがあります。その異なる2つのカテゴリーの車両が同じコースで同時にレースを行います。馬力が違うので、周回数を重ねていくと500の車両は300の車両に追いつきます。追いついたら追い抜いていかないと同じカテゴリーの車両に抜かれるので、追い抜いていかなければなりません。ここでうまく抜いていけないと、順位が入れ替わったり、クラッシュしたりします。うまく抜いていけるかがひとつの見所です。



スーパーGTのチーム監督には、元F1ドライバーの中嶋悟、鈴木亜久里、片山右京、その他には星野一義、脇阪寿一、マッチこと近藤真彦などがいます。マッチは皆さん知っていますね。マッチはコンドレーシングというチーム名でGT-Rを走らせています。今までのレースは、スタートして二人目のドライバーに交代するとき給油とタイヤ交換を行うのが普通でした。しかしあるレースで、マッチのチームは、ピット作業時間を短縮させるべく、タイヤを交換しない作戦に出ました。そして見事に優勝しました。あの時はテレビの実況や解説者もびっくりの出来事でした。何より、GT-R好きの私にとってGT-Rの優勝は、大変うれしい出来事でした。

これまで、何回かスーパーGTをサーキットで見たことがあります。秋田から一番近くで開催場所は、仙台市郊外にあるスポーツランド菅生（すごう）というサーキットです。このサーキットには魔物が棲むと言われ、毎年何かが起こります。ある年、残り10周まで、2位以下に大差をつけて走行していたGT-Rが突然止まってしまいました。原因は、車両の外部についての緊急時に車両の電源をシャットダウンするスイッチに、他の車両から飛んできた小さな部品が当たってしまうという、これまでに例のないトラブルでした。魔物の仕業によってGT-Rは、そのとき優勝を逃しました。Youtubeで「菅生魔物」と検索すると動画が見れますので、興味のある方は見てみてください。

私が菅生に行くときは、土曜日は仙台周辺で買い物をして、牛タンを食べて、日曜日はレースを楽しんで帰ってくるというプランです。牛タンも食べれるし、一石二鳥です。スーパーGTは爆音とスピード感がすごく、いろんな車両の走りを見れるレースです。興味のある方、是非サーキットで観戦してみてください。

長々とお付き合いいただき、ありがとうございました。次回は、秋田リハビリテーション学院の伊藤昭先生にお願いします。

ニュース編集班より

ニュース編集班班長の加賀屋です。今月の花は悩んだ末に秋のコスモスです。天王グリーンランドで撮影してきました。今号から班員の提案で職場紹介のタイトルが変更されました。なんとも秋田らしい仕上がりです（笑）

次回ニュースの原稿締め切りは12月21日（金）です。載せたいニュース、写真などありましたら、ニュース編集班までお寄せください。

「マイブーム」を依頼された秋田リハビリテーション学院の伊藤昭先生も、この期日までにご自身の写真つき原稿を送付して下さるようお願いいたします。（1,000～1,500字程度）

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立脳血管研究センター 機能訓練部 加賀屋勇気

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校

秋田リハビリテーション学院

平成27年4月開校
秋田県初！
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します！医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字水木田33
〒010-0964 秋田市八橋畷沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)
FAX 0187-66-2139
☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546
本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313
能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体現象測定装置・FES（機能的電気刺激）
リハビリテーション機器 販売

有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1
TEL 018-837-0161
FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621
秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5
TEL/FAX 018-882-2116

TEIJIN

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社
〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号
PAD(XX)NAC(TB)1201

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

(株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22

TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126